

DT200R

1984年 / 市販車

1970年代から盛んであった北米のオフロード文化は、1980年代には日本にも伝播し、林道や山道などの未舗装路を走行するエンデューロレースの人気の高まり、比較的安全に楽しめることから、週末になると、各地のイベントに幅広い年齢層のライダーが趣味のひとつとして参加していた。このモデルは、競技用モトクロッサーのメカニズムやパフォーマンス・イメージを公道走行可能なトレールモデルとして表現した製品。乾燥重量99kgの車体に、水冷・2ストローク・単気筒エンジンに、吸気脈動を平滑化するYEIS、排気効率を高める可変バルブYPVSなど、ヤマハ独自の2ストロークエンジン技術を採用したことによって、30PS 8,500r/minのハイパワーを実現。フロントにトレールモデル専用のディスクブレーキを装備していたことも先進的であった。デザイン的な特徴として、1981年に登場したモトクロッサーのYZ490で採用されたシート前端がタンクの上に覆いかぶさるように伸びた形状は、オフロード走行時の自由なライディングを確保するための機能的なアイコンとして、現代のYZシリーズが表現しているタンクからシート、テールカウルへと続くフルフラットなシルエットの市販車としての起源として捉えることができる。

